

陳情第 1 1 2 号	受理年月日	平成 2 7 年 9 月 1 6 日
付託委員会	総務財政委員会	
陳 情 者	八幡東区尾倉三丁目 3 - 2 2 八幡市民会館と八幡図書館の存続問題を考える会 代表 三崎 英二	
件 名	八幡市民会館の存続について	
要 旨	<p>市議会だよりの記事によれば、市長は、世界遺産登録となると日本の産業発展に大きく貢献してきた本市の産業史が再認識され、多くの人を呼び込む好機が来ると期待している。市内に点在するさまざまな歴史的建造物を絡めた集客や産業観光など、本市独自の取り組みはもちろん、広域連携を進めることで更に効果的な取り組みができると答弁している。</p> <p>また、元気発進！北九州プランでは、都市ブランドとして、世界の環境首都、アジアの技術首都を掲げ、産学官民一体となって、その創造に努力している。また、北九州ブランドには食や文化などの地域資源があり、これをもっと磨きあげ、あらゆる機会を捉えて広く内外に発信していきたい。そのためには、自分の町に対する愛着と誇りを強く持つことが重要であるとも答弁している。</p> <p>景観重点整備地区である国際通りの中心部分を占める八幡市民会館から八幡駅までの一帯は、戦後の復興事業で国内有数の理想的な工業・文化都市が完成したと評価されている成功事例の地であり、八幡市民会館は八幡図書館とともに歴史的建造物であり文化財である。更に借景となっている皿倉山、帆柱ケーブルを含めて観光資源とする視点を加えれば、世界遺産登録による効果の裾野を大きく広げる可能性が見えてくると考える。八幡市民会館と八幡図書館を保存し、後世へ歴史をつなぐ発想こそ、この地域のにぎわいを増大させ、門司港レトロ地区と並ぶ本市の観光拠点として活性化と発展の展望を開くものである。</p> <p>ドコモモジャパンから市長宛に、6月12日付で八幡市民会館を日本におけるモダンムーブメントの建築に選定したとの通知があった。これは、</p>	

(続 く)

ユネスコの世界文化遺産登録に次ぐ価値ある評価である。加えて、八幡市民会館は、日本建設業連合会の第1回BCS賞を受賞している。同会館は北九州市民の貴重な財産である。

東京都目黒区では、建築界で唯一の文化勲章受章者である村野藤吾氏の設計による千代田生命ビルを目黒区総合庁舎としてよみがえらせ、同庁舎ツアーが人気を呼んでいる。同氏は、住まう人々、集う人々に対して、建築はいかにあるべきか、向き合うべきかを常に考え、時代の流行に乗ることのない、ゆるぎない独自の理論を展開したと言われ、その姿勢から生まれた建築は、きめ細かい配慮による密度のあるディテールと豊かな素材感、そして有機的な優しさと品格を備えていると言われている。

利用者、一般市民が八幡市民会館と八幡図書館の存続を強く熱望しているにもかかわらず、その声を受けとめずに一方的な通告でおおむね理解を得たとするのは、手続として無効と言わざるを得ない。

町の歴史と文化を破壊しないでいただきたい。北九州市と八幡地域の未来のため、八幡市民会館について再考していただきたい。